

線形計画

3

次の線形計画問題 (P) とその双対問題 (D) を考える .

$$\begin{array}{ll} \text{(P)} & \text{minimize} \quad \sum_{j=1}^n c_j x_j \\ & \text{subject to} \quad \sum_{j=1}^n \mathbf{a}_j x_j = \mathbf{b} \\ & \quad \quad \quad \mathbf{x} \geq \mathbf{0} \end{array} \quad \begin{array}{ll} \text{(D)} & \text{maximize} \quad \mathbf{b}^\top \mathbf{w} \\ & \text{subject to} \quad \mathbf{a}_j^\top \mathbf{w} \leq c_j \quad (j = 1, 2, \dots, n) \end{array}$$

ここで, $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n, \mathbf{b}$ は m 次元定数ベクトル, $\mathbf{c} = (c_1, c_2, \dots, c_n)^\top$ は n 次元定数ベクトルであり, $\mathbf{x} = (x_1, x_2, \dots, x_n)^\top$ と $\mathbf{w} = (w_1, w_2, \dots, w_m)^\top$ はそれぞれ n 次元, m 次元変数ベクトルである. また, $^\top$ はベクトルの転置を表す. $\mathbf{b} \geq \mathbf{0}$ と仮定する.

\mathbf{w}^* を双対問題 (D) の実行可能解とし, 添字集合 $J^* \subseteq \{1, 2, \dots, n\}$ を $J^* = \{j \mid \mathbf{a}_j^\top \mathbf{w}^* = c_j\}$ で定義する. $x_j (j \in J^*)$ と $\mathbf{y} = (y_1, y_2, \dots, y_m)^\top$ を変数とする次の線形計画問題を考える.

$$\begin{array}{ll} \text{(P}^*) & \text{minimize} \quad \sum_{i=1}^m y_i \\ & \text{subject to} \quad \sum_{j \in J^*} \mathbf{a}_j x_j + \mathbf{y} = \mathbf{b} \\ & \quad \quad \quad x_j \geq 0 \quad (j \in J^*) \\ & \quad \quad \quad \mathbf{y} \geq \mathbf{0} \end{array}$$

以下の問 (i)–(iv) に答えよ .

- (i) 問題 (P^{*}) の双対問題を (D^{*}) とする . 問題 (D^{*}) を書け . ただし, 変数として m 次元ベクトル \mathbf{v} を用いよ .
- (ii) 問題 (P^{*}) と (D^{*}) はともに最適解をもつ . その理由を説明せよ .
- (iii) $x_j^* (j \in J^*)$ と $\mathbf{y}^* = (0, 0, \dots, 0)^\top$ は問題 (P^{*}) において実行可能であるとする . 各 $j \notin J^*$ に対して $x_j^* = 0$ とおき, $x_j^* (j = 1, 2, \dots, n)$ を成分とする n 次元ベクトルを \mathbf{x}^* とする . そのとき, \mathbf{x}^* は問題 (P) の最適解であり, \mathbf{w}^* は問題 (D) の最適解であることを示せ .
- (iv) 問題 (P^{*}) の目的関数の最小値は正であるとし, \mathbf{v}^* を問題 (D^{*}) の最適解とする . そのとき, すべての $j \notin J^*$ に対して $\mathbf{a}_j^\top \mathbf{v}^* \leq 0$ が成り立つならば, 問題 (P) は実行可能解をもたないことを示せ .